

研究室紹介

佐賀県果樹試験場 病害虫研究担当

佐賀県の果樹は、県農業産出額の約17%を占め、山間山麓部を中心に広く栽培されている。主な品目はカンキツ類で果樹産出額の約9割を占め(2019年)、ほかなし、ブドウ、モモ等の落葉果樹が栽培されている。

カンキツ類では、県南部の有明海沿岸を中心に極早生温州、県中央部に位置する天山山麓地域では、高糖系温州が主に生産されている。県北西部の玄界灘沿岸地域では施設栽培が盛んであり、ハウスみかんは全国1位の栽培面積と生産量を誇る。また、当場で開発し、今年2月にデビューした本県オリジナルカンキツ品種‘佐賀果試35号(ブランド名:にじゅうまる)’の市場評価は高く、生産現場からも大きな注目を集めている。落葉果樹では県西部の伊万里地区において、主にナシが早期出荷を目的としたハウスやトンネル等の施設で栽培されており、施設栽培面積は全国1位である。

果樹試験場は、県中央部に位置する天山(1,046m)の麓、小城市小城町に県園芸試験場として発足し、数度の改組を経た後に、1962年に現在の果樹試験場となった。現在、研究部門は常緑果樹研究担当、落葉果樹研究担当、病害虫研究担当の3研究室で構成されており、果樹栽培に関する情報および技術発信の一躍を担っている。

病害虫研究担当のスタッフは研究員3名、試験研究を補助する職員6名の計9名である。

「防除効果はもちろん、環境に優しく、簡便・安価」を研究のコンセプトとして、生産現場で問題となっている病害虫の発生予察および防除技術の開発・確立を進めている。

①食の安全・安心を目指した技術

露地カンキツのチャノキイロアザミウマや褐色腐敗病、ナシのニセナシサビダニについて、耕種の防除などの各種防除技術を積極的に取り入れ農薬のみに依存しな



佐賀県果樹試験場

〒845-0014 佐賀県小城市小城町晴気91
TEL 0952-73-2275



チュウゴクナシキジラミ成虫



さび色胴枯病に罹病し赤褐色の樹液が漏出しているナシ樹

いような防除技術(体系)の確立を図っている。また、人工降雨機を利用した薬剤の耐雨性の解明や農地環境推定システム等のICT技術の導入により、効率的・効果的な薬剤防除の確立を検討している。

②難防除・新奇病害虫に対する技術

生産現場で問題となっている難防除病害虫、県内に新たに侵入してきた新規病害虫を主な対象としている。これまで、ナシにおいて日本で初確認のチュウゴクナシキジラミ(2011年)、また全国的に発生・被害が問題となったキウイフルーツかいよう病Psa3系統(2014年)について、国の委託プロジェクト研究に参画して、生態を明らかにするとともに、防除技術を確立した。現在は、全国的に問題となっている落葉果樹(本県はナシ)の急性枯死症の対策技術の確立について、落葉果樹研究担当とともに研究を進めている(令和2年度農林水産研究推進事業委託プロジェクト研究「果樹等の幼木期における安定生産技術の開発」)。プロジェクト研究以外にも、各種落葉果樹で問題となっているカイガラムシ類についても生態の解明と発生予察・防除技術の確立を検討している。また、ハダニ類、アザミウマ類やブドウ晩腐病等の病害虫の薬剤感受性、耐性菌検定も実施している。

③その他

先述の試験研究と併せて、県農業技術防除センターと連携して病害虫の発生予察事業に取り組んでいる。また、農薬の登録に関する試験、既存薬剤の有効な使用方法に関する試験も行っている。このほかに生産現場からの持ち込み相談や研修会、また現場指導機関の若手職員のスキルアップを目的とした研修会等も支援している。

最後に佐賀県果樹試験場のHPアドレスを以下に掲載します。病害虫に限らず、栽培面でも有益な情報を掲載していますので、是非ご覧ください。今後とも情報交換および試験研究に関する連携等について、よろしく願いいたします。

<https://www.pref.saga.lg.jp/kiji00322166/index.html>

(係長 衛藤友紀)